

チリのサンホセ鉱山落盤事故で、地下700メートルに閉じ込められていた作業員33名が、69日ぶりの10月14日、全員無事救出されました。奇跡の救出劇として全世界が見守る中、安全に、迅速に作業された関係者の努力と、苛酷な環境に耐え抜いた作業員全員に惜しみない敬意を表したいと思います。

さて、表紙は知念信雄先生の晩秋です。情緒あふれる作品で、日本の良さを再認識しました。

報告事項は、先ず宮里理事の国際保健に関するセミナーについてです。オバマ大統領が如何にアメリカ医療改革法を成立させたか大いに興味深く、参考にできる点もあるようですが、中間選挙でのオバマ氏の苦戦を伝える報道を見ると、今後が心配です。宮城会長の九医連常任委員会報告もぜひご一読ください。平成22年度女性医師の勤務環境整備に関する病院長との懇談会では、各病院の女性医師獲得に向けた取り組みが一定の成果を挙げる一方、女性医師側はキャリアアップに問題意識を持っているという課題が見えました。行政から財政的な支援の可能性が示唆されたのは朗報でした。金城理事から、平成22年第1回沖縄県地域産業保健センター運営協議会報告と、平成22年度第1回沖縄県産業医研修連絡協議会報告があります。前者は今年から県医師会が受託するようになった事業の本年の取り組みについてで、後者は産業医研修事業の進め方について話し合われています。マスコミとの懇談会は、全国で47番目、今年7月に始まった#8000事業について話し合われました。事業は順調に経過しているようですが、冬場にパンクしない様に祈るばかりです。

保険のひろばは、連載1周年を記念してこれまでの内容が一覧できます。今後は、各科ごとに平安理事がわかりやすく解説される予定です。ご期待ください。

生涯教育コーナーは、比嘉睦先生に小児ネフローゼ症候群に対する免疫抑制療法について(何と難治な疾患か)、プライマリ・ケアコーナーは大湾一郎先生に変形性関節症について

(何と罹患率の高い疾患か)解説していただきました。

インタビューコーナーは、那覇市医師会会長の真栄田篤彦先生です。昨年のベストフォト賞に輝かれた水中写真の名手であることはご存知のとおりです。

月間(週間)行事のお知らせは、屋良朝雄先生にSIDS対策(仰向け寝・妊娠したら親は禁煙・母乳育児)、久田友治先生には、医者は自らのミスを報告しているか(やっぱりしていない)、佐久本薫先生には、HIV母子感染予防の現状と課題(全国3位の患者数の再認識)についてそれぞれご寄稿いただきました。

発言席で、大浦孝先生は、異邦人・パリからの旅行透析者について、高良剛ロベルト先生・佐久川さつき氏は、幻覚性きのこについて述べられています。大浦先生の異文化コミュニケーション、高良先生・佐久川氏の沖縄にも自生する!マジックマッシュルームに関するそれぞれの知見は大変興味深いものです。

本の紹介は、宮城政剛先生の「氣の確立」で、生涯の師との出会い、道を究める姿勢が熱く語られています。随筆は、10月号に続き、金城勤先生が奄美大島の住民の方々とのふれあいを暖かく記され、今回から始まる長嶺信雄先生のチベットを訪ねての紀行文は今後の展開に目が離せません。

今回も多くの皆様にご寄稿いただき、心より感謝申し上げます。

衣替えも済み、冬の準備期間に入りました。多忙な季節に備え、コンディショニングには注意したいものです。

広報委員 白井 和美

訂正とお詫び

会報(10月号)96頁に掲載致しました編集後記の執筆者名を広報委員 旭朝弘と掲載致しましたが、広報委員 池村剛の誤りです。ここに訂正し、お詫び申し上げます。